

消防団長紹介

八尾市消防団 団長 松村 康正

八尾市は大阪市の近郊都市として発展し、人口20万人を超える都市です。平成13年4月1日に特例市、平成30年4月1日に中核市になりました。夏の風物詩として毎年9月上旬に盛大に開催される八尾河内音頭まつり。河内音頭グランプリや大盆踊り大会などが行われ、河内音頭一色のまつりは多くの市民で賑わいます。八尾市は豊かな歴史や文化財を有するまちです。市東部にある高安山山ろくは、地元で「やまんねき」と呼ばれ、古くから人々が暮らす里山であり、歴史遺産の宝庫です。なかでも、中河内最大の前方後円墳の心合寺山（しおんじやま）古墳や、200基以上もの横穴式石室墳が集中する「高安千塚（たかやすせんづか）古墳群」は全国的にも知られています。また中小企業を中心に、高度な技術力と製品開発力を誇る「ものづくりのまち」でもあります。全国トップシェアの出荷額で伝統ある歯ブラシ生産をはじめ、金属製品や電子機器など最先端技術に至るまで、匠の技が光ります。特産品は、八尾えだまめ・八尾若ごぼうです。

八尾市消防団は、1本部4方面隊11分団で構成し、平成30年4月1日女性分団を創設、平成31年4月1日現在290名在籍しています。

私は、平成2年4月に入団以来、班長、副分団長を務め、平成16年4月からは分団長、平成21年4月からは副団長を歴任し、平成31年4月からは団長に任命されました。

消防団活動で記憶に残っている出来事は、平成30年9月に日本に上陸した「台風21号」です。近畿地方では、この台風による暴風等の影響で、ほぼ全ての交通網がストップし、大規模停電、死傷者多数発生、家屋倒壊等、甚大な被害が発生しました。八尾市においても、市内全避難所の開設を受け、全屯所に消防団員がいち早く参集し、各地域の巡回警備、水害に備えた土のうの作製、避難広報、倒木の処理、屋根瓦等の落下危険排除、トタン等飛散防止処置、ブロック壁の崩れ、電柱及び電線への物品垂れ下がりに係る安全管理を実施しましたが、猛威を振るう暴風を前に、自然災害に対する自分たちの無力さを痛感することとなりました。

八尾市消防団は、崇高な使命感のもと、その動員力、即時対応力を活かし、地域に最も密着した防災機関として、大規模かつ広域に発生する自然災害等の新たな脅威に立ち向かわねばなりません。このため、火災はもとより人命救助活動等に必要消防資機材や装備品の充実強化、青年層の入団促進、女性分団の職域拡大等、消防団の活性化を推進し、高い意識を持った実践力のある消防団組織を目指しています。